

## 中国の教育博士専門学位 Ed.D.の歴史と現状に関する一考察

浙江師範大学浙江省智能教育技術と応用重点実験室

胡啓慧

横浜国立大学教職大学院

野中陽一

### 1. はじめに

専門職学位の教育博士（英語ではEd.D.、中国語では「教育博士専門学位」、以下「教育博士」）は学位であるPh.D.の相対的な学位（中国語では「教育学博士」）であり、これらを合わせて教育分野の博士号を構成している。アメリカのハーバード大学が教育博士の大学院教育を先駆けて実施し、1920年に教育博士を授与したほか、イギリス、オーストラリア、カナダでも相次いで教育博士が設置された（申・夏 2022）。

中国の教育博士の育成に関する試みは1999年から始まり、2009年国務院学位委員会の通知により、北京師範大学など15個の大学が2010年に学生募集を開始して教育博士の育成を行ってきた。中国の教育博士養成制度確立の外部動機は、時代の発展に適応する優秀な教員や教育管理者などに対する需要であり、そして欧米諸国の教育博士養成の研究と実践にも影響されている。内部動機は質の高い教育に対する需要の高まりと、中国の経済発展とそれに伴う労働市場の需要の変化である（高・朱 2019）。10年以上の発展を経て、教育博士の養成制度が確立され、教育博士の学生数はかなりの規模に達した。

中国の専門職学位について、陳（2010）は中国の専門職学位の発展現状を明らかにし、その制度の課題をまとめている。雲尾（2009）は中国の教育修士制度を紹介し、教員の専門性を高めるための「教育修士」の歴史、カリキュラム等を紹介した。しかし、中国の教育博士制度を紹介した研究はない。日本にはまだ専門職の教育博士は存在しないが、先行している中国の制度を参考にできるようにすることは、意義があると考えた。したがって、この論文では、中国の教育博士の歴史と現状を明らかにするために、文献調査によって、中国の制度を整理分析し、その特徴を考察する。

本論文は発展の歴史、制度の内容、実施の現状、実施の効果と2023年の動向の5つ部分から構成されている。

発展の歴史、実施の現状と実施の効果については、中国知網（CiNiiと同様の学術的なデータベース）で関連論文を検索し主要なものを抽出した。制度の内容と2023年の動向については、政府と各大学のウェブサイトの関連政策、通知などを参照した。

### 2. 教育博士の発展歴史

呉・姚（2020）、呉（2017）及び李（2019）の研究をもとに、中国の教育博士の歴史的発展経緯を明らかにした。

20世紀の末から、新世紀の中国の教育発展における高レベルの専門家に対する切実な需要に適応するため、国内の多くの大学は教育博士の大学院生教育に関する一連の試みを行った。

中国教育博士養成の実践的な試みは、1999年に華中科技大学が創設した「大学学長博士課程クラス」であり、豊富な管理経験を持ちながら博士号を取得していない大学の管理者を対象とした。その後、北京師範大学は2000年に「教育行政管理幹部の在職博士教育」を展開し、北京大学は2003年にハイレベル研究型教育管理人材の育成を模索し、華東師範大学と米国ペンシルベニア大学は2004年に教育博士プロジェクトの試行を協力して展開した。

全国の多くの大学の試行を前に、国務院学位委員会は2007年に教育博士専門学位論証専門家グループを設立し、2008年に開催された国務院学位委員会第26回会議で「教育博士専門学位設置案」を審議して採択した。これは中国の教育博士の誕生を意味している。

2009年、国務院学位委員会は北京大学、清華大学、北京師範大学など15校を教育博士の最初の育成機関として承認した。この15校は2010年に正式に学生を募集し始めた。

教育博士の育成経験を総括し、その育成の質を高めるため、2015年に全国教育専門学位大学院生教育指導委員

会は15個の大学に対して特別評価を行った。2017年の国务院学位委員会の第12回博士修士学位授与審査では、首都師範大学などの12校が第2陣の教育博士専門学位授与機関となり、翌年から学生募集を開始した。

教育博士の専門分野も徐々に他の専門分野に拡大している。教育博士の設置当初は、「学校課程と教科教育」、「学生の発達と教育」、「教育のリーダーシップと管理」の3つの分野だけがあり、2018年に「中国語国際教育」が増設されている。

全国では27の大学が教育博士を募集しており、2020年在学の教育博士は3404人、484人が教育博士の学位を授与された(秦・宋 2021)。2020年9月25日に国务院学位委員会と教育部は共同で「専門学位大学院生教育発展方案(2020~2025)」を配布し、専門職博士大学院生の募集数を大幅に増加させることを提案し、これが専門職博士の教育が新しい発展時期に入ったことを示している(翟ら 2022)。

### 3. 教育博士の学位設置案の内容

最初の育成機関である15の大学は学生募集を開始すると共に、全国教育専門学位大学院生教育指導委員会は教育博士の育成方案(2010年試行)を策定した。目標、募集対象、専門分野、学業年限、育成方式、課程内容などは以下のように規定されている。(2018年の「中国語国際教育」の増設に伴い、その育成方案は同年に策定され、その説明を3.9.に記述した。)

#### 3.1. 育成目標

教育博士の育成目標は、教科指導や教育管理など教育分野の複合型、職業型の高級専門人材を育成することである。

教育博士の専門職学位取得者は教育事業に対して強い責任感と使命感を持ち、比較的の高い人文と科学素養、広い教育専門知識と比較的の高い教育理論レベルを持ち、科学方法を有効に運用して教育実践中の複雑な問題を研究解決し、関連する専門分野の実践活動を創造的に展開することができる。

#### 3.2. 募集対象

教育博士の募集対象は修士号を持ち、5年以上の教育或は関連分野のフルタイムの職歴を持ち、関連分野に一定の成果があり、比較的高い研究能力を持つ小中高等学校の教員と各級各種学校の管理者である。

#### 3.3. 専門分野

教育博士には、「教育のリーダーシップと管理」、「学

校課程と教科教育」と「学生の発達と教育」の3つの専門分野が設けられている。

#### 3.4. 学業年限と育成方式

教育博士の大学院生の養成は、単位制度と柔軟な学業制を採用しており、基本的な学業年限は4年である。その中で、学校でのフルタイムの勉強と研究の累積時間は1年以上が必要である。

育成過程には、課程学習、中間評価(中間発表会及び資格審査)、開題報告(学位論文の見極め、開題報告書には論文の目的と意義、先行研究、概要、作成計画などが含まれる)、論文執筆、論文答弁(公開発表会及び本審査)などが含まれる。

教育博士は集団育成と教員指導を結合した育成方式を実行する。

#### 3.5. 教育課程の設定

教育博士の課程体系は、専門管理者、専門教員、教育者の育成のため、課程の内容は教育理論研究の最新の進歩を反映し、課程の構造は包括的かつ専門的で、実践性を強調する。モジュール課程と単位制を採用し、チーム学習、テーマ別セミナー、現場研究、ケース分析、社会調査などの方法を重視し、自習、宿題、個別指導、文献読解を強化し、学生が実際に学んだ知識を活用する能力を高める。

育成目標の要求に基づいて、教育博士の授業数は20単位以上に設定する必要がある。育成機関は目標に基づいて共通教養科目、専門必修科目、選択科目の授業内容と単位数を設定し、学校の特色を際立たせる。開設された課程には、次のモジュールを含む必要がある。

##### (1) 共通教養科目モジュール

4単位以上。学生の人文科学のリテラシーを向上させ、学問分野の視野と知識面を拡大することを目的としている。

##### (2) 教育理論モジュール

6単位以上。学生の教育理論リテラシーを向上させ、教育理論を用いて教育の実践的問題を研究・解決する能力を養うことを目的としている。

##### (3) 教育研究方法モジュール

4単位以上。多様な教育研究手法を総合的に応用する能力を高め、問題意識と科学的思考法を涵養することを目的としている。

##### (4) 教育実践研究モジュール

6単位以上。教育理論と研究方法を総合的に応用し、

実践的な経験を振り返り、実践的な問題を研究して解決し、教育改革を主導するリーダーシップを育成することを目的としている。

### 3.6. 中間評価（中間発表会及び資格審査）

中間評価は全ての課程学習に合格した後、学生が学位論文を書く能力を備えているかどうか、学位論文を書く資格があるかどうかを審査することである。学生は専門分野の育成要求に基づいて、理論、文献研究、実践研究の3つの方面でそれぞれ 8000 字以上の研究報告書を完成しなければならない。

育成機関は関連分野の専門家で構成された審査委員会を設立して中間審査を行う。審査委員会は学生の道徳品質、課程学習、研究報告書と現場での発表や質問応答などの状況をもとに、学生が学位論文を書く能力を備えているかどうかを評価する。中間評価に合格できなかった者は、中間評価をもう一回申請することができる。2回目の中間評価不合格または4年以内に中間評価不合格で特別な理由がない場合は、学業は中止される。

### 3.7. 開題報告（学位論文の見極め）と学位論文

教育博士の大学院生は、開題報告を通じて学位論文の研究テーマを確定しなければならない。論文の研究テーマは教科教育や管理実践などの中で現実的意義と応用価値を持つ重要な問題に由来し、本職と関連する必要がある。

学位論文は、関連する理論と科学的方法を総合的に運用して基礎教育における実践問題を分析解決し、実践を通じて新たな知識を探究することを重視しなければならない。

学位論文は一般的に8万字以上である。

### 3.8. 論文答弁（公開発表会及び本審査）と学位授与

教育博士の学位論文審査委員会のメンバーの中には、少なくとも1人の高級専門技術職を有する実践分野の専門家が必要である。

学生は規定の課程を修了し、その単位を修得し、規定に基づいて学位論文を提出し、公開発表会で答弁し本審査を通す者は教育博士の専門職学位、及び博士大学院卒業証書を授与する。

### 3.9. 「中国語国際教育」の育成方案

2018年11月に公表された「中国語国際教育」の育成方案は2010年の教育博士の育成方案と類似しているが、以下の点は異なっている。

(1) 必修単位数がより多くなり、24単位以上が必要

である。そのうち、共通教養科目モジュールは4単位、教育理論モジュールは8単位、教育研究方法モジュールは8単位、教育実践研究モジュールは4単位以上であることが規定されている。

(2) 各モジュールの科目は具体的に示されている。例えば、共通教養科目モジュールには外国語（2単位）、政治理論（2単位）、教育と中国語国際教育最前線（2単位）などの科目が例示されている。

(3) 実習が必須である。教育実践研究モジュールにおいて、孔子学院（政府が世界各国の大学等と提携してその地に設立する中国語および中国文化に関する教育機関である）などの海外の関連機構で一年以上の実習が必要であることが明確に規定されている。

(4) 学術的成果が明確的に規定されている。国際会議、政策報告、学術刊行物の3つに少なくとも一つに投稿して公刊することが必要であることが規定されている。

## 4. 実施の現状

### 4.1. 育成機関と募集人数

教育博士の大学院教育を実施している27の大学の多くは師範大学（教員養成大学）である。表1と表2に示されたように、第1陣の教育博士試験校15校のうち10校、第2陣12校はすべてそうである（呉・姚 2020）。師範大学は教師教育の使命を担っており、教師を育成する伝統があり、教育博士を育成するには先天的な優位性がある。

2010年から2019年までの10年間、北京師範大学教育博士の学生募集総規模は234人で首位に立ち、華東師範大学教育博士の学生募集総規模は199人で2位にランクインしたが、地方大学を代表する西北師範大学教育博士の募集総規模はわずか64人で、第1陣の育成機関の中で最も募集規模の小さい大学である。第2陣の育成機関もほぼ地方大学であり、教育博士の募集規模は第1陣の大部分より小さい。

### 4.2. 3つの専門分野の学生数

募集人数の違いは異なる大学間だけでなく、異なる専門分野間にも顕著に反映されている。表3に示したように、この6年間に募集された959人の教育博士の大学院生のうち、78%の学生は「教育のリーダーシップと管理」、14%の学生は「学校課程と教科教育」、8%の学生だけが「学生の発達と教育」の専門分野に分布している。

専門分野の学生分布にはこのような明らかな違いがあ

表1 2010～2019年第1陣の15大学の教育博士の募集数

番号	育成機関	年										合計
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
1	北京師範大学	14	17	23	17	17	15	18	16	23	74	234
2	華東師範大学	7	14	16	14	20	19	25	30	29	25	199
3	東北師範大学	6	8	7	8	8	7	8	9	62	53	176
4	北京大学	17	16	15	17	16	15	15	15	19	13	158
5	華中科技大学	20	20	18	16	10	9	9	9	20	20	151
6	清華大学	19	19	18	15	11	10	11	12	14	20	149
7	アモイ大学	7	10	19	10	12	15	17	12	22	25	149
8	西南大学	16	12	14	10	10	10	10	10	19	35	146
9	華中師範大学	10	10	4	8	4	4	9	11	30	34	124
10	浙江大学	8	8	9	10	13	6	7	11	15	20	107
11	南京師範大学	10	8	8	8	7	8	8	7	29	12	105
12	陝西師範大学	5	6	7	6	6	6	8	10	23	21	98
13	華南師範大学	8	6	6	6	10	10	10	10	14	10	90
14	南京大学	9	6	4	8	8	8	9	9	7	7	75
15	西北師範大学	5	6	4	5	4	4	6	4	14	12	64
合計		161	166	172	158	156	146	170	175	340	381	2025

呉・姚 (2020) の表1より

表2 2018と2019年第2陣の12大学の募集数

番号	育成機関	2018年	2019年
1	天津師範大学	14	10
2	首都師範大学	10	13
3	河北師範大学	10	15
4	河南師範大学	10	15
5	遼寧師範大学	10	10
6	浙江師範大学	10	20
7	曲阜師範大学	10	20
8	湖南師範大学	10	10
9	雲南師範大学	10	20
10	広州大学	10	15
11	新疆師範大学	8	8
12	揚州大学	4	8
合計		116	164

呉・姚 (2020) の表2を改編

表3 2010～2015年3つの専門分野の人数

年	合計	教育のリーダーシップと管理	学校課程と教科教育	学生の発達と教育
2010	161	115	34	12
2011	166	129	31	6
2012	172	136	22	14
2013	158	124	13	21
2014	156	127	21	8
2015	146	119	15	12
合計	959	750	136	73

呉 (2017) の表1を改編

り、「教育のリーダーシップと管理」の社会的需要が旺盛であることを反映しているだけでなく、思考すべき問題も存在する可能性がある (呉 2017) .

### 4.3. 卒業率

第1期2010年入学の教育博士は161名を募集し、2014年までに予定通りに卒業したのは36人で、予定通りに卒業した率はわずか22%だった。同時に、2018年に中国の教育博士育成資格を持つ大学は27校に増加し、募集拡大は加速しており、その年の募集人数は456名に増加し、そのうち小中高等学校からの教育博士募集数は第1期の34名から2018年まで141名に増加し、累計人数は337名に達した。2018年全国の累計募集人数は1760人、卒業人数は337人とどまっている。(徐ら 2022)

2019年の9校に対する研究結果によると、教育博士の90%以上は予定通り卒業できず、一部の大学では1人だけ卒業し、或は予定通りに論文を提出する学生はいなかった状況もある (高・朱 2019) .

### 4.4. 卒業するための研究業績

教育博士の設置初期に、該当大学が定めた学術ジャーナル (一般には学校が認定した高レベルジャーナル、例えばCSSCIジャーナル、北京大学コアジャーナルなど) に一定数の学術論文 (一般には1～2本) を公刊することは、教育博士生が学位を取得するための事前条件である (申・夏 2022) .

## 中国の教育博士専門学位 Ed. D. の歴史と現状に関する一考察

各大学は、教育博士生が学術論文の発表要求を満たしてこそ、学位論文の提出を申請したり、学位を取得したりすることができることを明確に規定している。例えば、アモイ大学が教育博士課程生に「第1著者かつアモイ大学を第1署名機関としてコアジャーナルレベル以上の学術刊行物2本以上有する」と規定している場合、浙江大学は教育博士の学生に「少なくとも学位論文に関連する学術論文を学校が定めた刊行物に1本以上公刊しなければならない」と要求した。

近年、教育評価改革に伴い、清華大学、華東師範大学、華中師範大学を含む一部の大学は、教育博士の学術論文に対して強制的な要求をせず、関連事項を取り消し始めた。例えば、清華大学は2019年から教育博士の学術論文の要件を全面的に撤廃し、関連要求を「教育博士在学中の学術成果が所在する学科の要求に達することで学位申請を提出することができる」という要件に変更した。2021年12月1日、華中師範大学大学院は、教育博士のCSSCI論文公刊の要求を明確に取り消し、シンクタンク類成果、優秀教育案例、全国的な業界標準規範など教育博士の実際の仕事に関する研究成果を評価基準に組み入れた。しかし、大学の多くは現在も学術論文を一定数発表するよう教育博士の在学者に求めている。

### 4.5. 育成案（教育学博士との比較）

教育分野では、学術博士のほかに専門職学位を設置することは、学術学位と専門職学位が異なる課程基準と育成モデルに基づいているはずであったが、実際の状況は

そうではない。学生募集規模が最も大きい北京師範大学と華東師範大学を例にとると、その教育博士と教育学博士課程の基準は表4に示すように、ほぼ似ている。

第一に、課程構成の面では、専門職博士と学術博士はいずれもモジュール化課程を実行し、「共通教養科目、専門科目、実践科目」の3つのモジュールを含み、両者の差は大きくない。そして、単位数、基本学業年限もほぼ同等である。

第二に、授業の教員の面では、指導者も指導者グループもほとんど同じ大学の博士課程の教員である。同じ教員が学術型と専門型の異なる博士の授業を行うのは難しい（呉・姚 2020）という指摘もある。

### 5. 実施の効果（実態調査）

王（2019）は、全国の教育博士課程学生112名を対象に調査を実施し、課程設計、授業方法、指導教員、評価方法の4つの側面から博士課程大学院生の教育における育成状況を実証的に分析した。

課程内容満足度アンケート（5段階評価）では、課程内容の実践性および選択性満足度は平均3ポイントよりも低いことが示された。その理由は、一方では、教育博士の育成機関は教育学博士育成機関（ほとんどは師範大学または総合大学）であることが多く、意図的または意図せずに教育学博士課程を模倣しているため、課程内容は実践よりも理論に重点を置いている。一方、教育博士の数が少ないため、別々に科目を設定することは難しく、

表4 教育博士と教育学博士の育成案

学校	種類	課程構成	単位	学業年限	指導教員
北京師範大学	教育博士	共通科目（外国語） 専門科目（専門理論、研究方法、専門実務） 発展科目（最先端講義、調査研究、教育調査）	≥20	4～6年	指導教員グループ≥3人
	教育学博士	共通必修科目（政治、外交、方法論） 学位基礎科目 専門科目 必須項目（科学研究と教育実践、国際経験、中間評価）	≥20	基本は3年で、最長は6年	指導教員或は指導教員グループ
華東師範大学	教育博士	共通科目 専門必修科目 教育実務と実践研究科目	≥23	基本は4年で、最長は6年	指導教員或は指導教員グループ
	教育学博士	学位共通科目 学位基礎科目 学位専門科目 学際的または専門横断的な選択科目	≥19	基本は4年で、最長は6年	指導教員或は指導教員グループ

呉・姚（2020）の表4より

教育学博士と一緒に授業を受講することが多い。

授業方法について、調査問題は「教員が授業過程においてどのような教授法を多く用いているか」（二肢選択問題）の質問に答える際、現場観察法、事例分析法、フィールドワークなど実践的な教授法は、講義に比べてはるかに少ない頻度で用いられている（図1）。

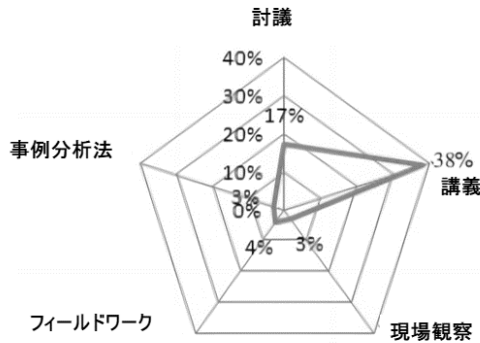


図1 教育博士の授業方法の使用頻度

王 (2019) の図2より

指導教員について、大学院生は指導教員の学術的成果に代表される科学的研究能力に最も満足しており、次に学術倫理と個人涵養が続く。一方、専門能力開発における指導に対する学生の満足度は低い。専門能力の育成より、指導教員の学術性に傾く傾向があることが示された。

評価方法について、実際の調査では、ほとんどの教育博士は博士号を申請する際に教育学博士と区別せず、ほぼ同じであることが分かった。また、ある博士課程の指導教員とのインタビューでは、教育学博士に比べて教育博士号論文は文字数が相対的に少ないだけで、学術的な要求、審査条件はほとんど変わらないことが分かった。

もう一つの研究の調査対象である中国初の教育博士養成機関一つの総合大学で、その教育博士課程の200名以上の大学院生に対する実証分析を通じて、王・郭(2020)は以下の結論を得た。第一に、学生の全体的な満足度は比較的高く、その中で教員チームと管理システムの評価が高く、組織の相互作用に対する評価が最も低く、課程教育、条件保障と専門能力開発に対する評価がほぼ同等である。第二に、具体的な内容から見ると、教育博士大学院生は課程内容の理論と実践の最前線性、指導者の学術レベル、図書資料と教育施設などのハードウェア資源に非常に満足しているが、授業形態の豊富さ、実務分野の指導者の割合、実習拠点の構築、大学主催の学生交流活動、学術論文及び卒業論文の要求、職務昇進などの満足度は低い。

## 6. 2023年の動向

### 6.1. 各大学の予定募集人数と専門分野

各大学のホームページに教育博士の予定募集人数を収集して表5にまとめた。表5に示されたように、大学ごとに公開されている募集計画は異なり、4つの専門分野の募集人数を明確に規定している大学（北京師範大学など）もあれば、1つの合計数だけ専門分野ごとの人数を規定していない大学もある（華東師範大学など）。

表5によると、2023年は少なくとも1200人以上の教育博士を募集する見込みがあり、北京師範大学の募集人数は首位の165人である。

専門分野から見ると、「教育のリーダーシップと管理」の数が最も多く、次は「学校課程と教科教育」、それから「学生の発達と教育」、最後は「中国語国際教育」であることがわかった。しかし、全ての大学は同じ傾向ではない。「中国語国際教育」を除き、北京師範大学において、最も多いのは「学生の発達と教育」と「学校課程と教科教育」であり、「教育のリーダーシップと管理」が一番少ない。南京師範大学において、最も多いのは「学校課程と教科教育」であり、「学生の発達と教育」と「教育のリーダーシップと管理」は少ない。

### 6.2. 北京師範大学の2023年の募集要項

北京師範大学は博士の募集人数が最も多く、本節は北京師範大学の2023年の募集要項を説明し、現在の博士課程の具体的な要件を明確にする。

#### 6.1. 専門分野と募集人数

165人を募集する予定で、そのうち「教育リーダーシップと管理」は20人、「学校課程と教科教育」は63人、「学生の発達と教育」は70人、「中国語国際教育」は12人である（表5）。

#### 6.2. 応募条件

- (1) 中華人民共和国公民で、法律を遵守している。
- (2) 修士号を取得している。
- (3) 対応する教育分野で5年以上のフルタイムの実務経験がある。
- (4) 各専門分野の対象は以下のように規定している。  
「教育リーダーシップと管理」は、大学（短期大学を含む）および高等学校（中等職業中等学校を含む）の中高管理職、中学校、小学校、幼稚園の上級管理職に限定される。

「学校課程と教科教育」は、小中高学校、幼稚園教員資格を有し、比較的高い教育実績、或は研究能力を持つ

表5 2023年27個の大学の予定募集人数

	大学	合計	教育のリーダーシップと管理	学校課程と教科教育	学生の発達と教育	中国語国際教育
1	北京師範大学	165	20	63	70	12
2	華東師範大学	56	✓	✓	/	/
3	東北師範大学	98	35	35	20	8
4	北京大学	45	36	9	/	/
5	華中科技大学	-	3	-	-	-
6	清華大学	31	-	-	-	-
7	アモイ大学	20	-	-	-	-
8	西南大学	58	-	10	-	-
9	華中師範大学	49	41	8	/	/
10	浙江大学	25	✓	✓	/	/
11	南京師範大学	49	11	23	13	2
12	陝西師範大学	46	✓	✓	✓	/
13	華南師範大学	62	23	16	21	2
14	南京大学	5	✓	/	✓	/
15	西北師範大学	75	48	/	27	/
16	天津師範大学	49	/	22	22	5
17	首都師範大学	50	✓	✓	/	7
18	河北師範大学	23	15	8	/	/
19	河南師範大学	41	33	/	5	3
20	遼寧師範大学	44	30	11	/	3
21	浙江師範大学	45	13	15	10	7
22	曲阜師範大学	60	44	6	/	10
23	湖南師範大学	-	-	-	-	-
24	雲南師範大学	72	/	30	20	22
25	広州大学	27	15	/	7	5
26	新疆師範大学	40	32	8	/	/
27	揚州大学	-	-	-	-	-
	合計	1235	399	264	215	86

-: 関連データが見つからない, ✓: 当該専攻を募集する, /: 当該専攻を募集しない  
表中のデータは各大学のホームページから収集された

優秀な教員、或は各レベルの教育研究機関で教育と研究に従事する人に限られている。

「学生の発達と教育」は、大学（短期大学を含む）および高等学校（中等職業中等学校を含む）、中学校、小学校、幼稚園において、生徒のメンタルヘルス教育、キャリア開発・就職指導、学生事務管理の分野に従事する教員または管理者に限られる。

「中国語国際教育」は、優れた素養と中国語能力を備えている各級の学校の教員に限られる。

(5) 教育分野に関連する2人の准教授（または同等の肩書き）以上の専門家に推薦される。

(6) 身体の状態が所定の身体検査基準を満たしている。

### 6.3. 入学者選抜プロセス

入学者選抜は予備審査と再審査の2段階に分けられる。予備審査は関連分野の5名以上の専門家で構成される予備審査委員会を設立する。予備審査委員会は、志願者から提出された書類を審査し、研究計画書、修士論文、科学的研究能力と成果、実践能力と成果、総合的な品質などが含まれる。予備審査委員会が上記の書類に基づいて独自に採点し、予備審査スコアは100点である。予備スコアが60点未満の候補者は、再審査評価を受けることができない。

再審査は2段階で行われる。第1は筆記試験である。主に受験者の外国語レベル、基本的な専門理論の習得、教育実践、教育問題を分析解決する能力を調べる。筆記試験の結果は再試験結果には含まれず、合否の2種類に分けられるだけで、合計ラインは60点であり、合格者

のみが面接に参加できる。

第2は面接である。面接官は関連分野の少なくとも5人の専門家で構成され、受験者の科学研究経験と能力、実践的経験と能力、実際的な問題を分析解決する能力、包括的な品質などに焦点を当てて考察する。各受験者の面接結果は各専門家の平均スコアで、面接スコアが60未満の受験者は入学できない。

面接結果は再審査の結果です。入学候補者のリストは、受験者の最終合計点（高から低）に応じて決定され公開する。

### 6.4 育成方法

教育博士専門学位の大学院生は非全日制の学習形式で、学制は4年制である。育成方式には、課程学習、特テーマ別セミナー、ケーススタディ、現場研究、チーム学習、社会調査が含まれる。課程学習、中間評価、開題報告、論文執筆、論文答弁などが含まれる。

課程学習は集中学習と分散学習を結合した形式を実行し、育成部門が統一的に計画し、前の2年間に短期集中授業方式を採用する。課程学習が完了した後、在職中に博士論文を書き、論文テーマの選択と執筆段階では主導教員責任制を実行する。「中国語国際教育」の集中学習時間は3学期以上である。

指導教員は、学生が入学した後、学生と指導教員の双方向選択によって決定される。

### 6.5 授業料

授業料は、一学年は25,000元（500,000円程度）である。非全日制の学生は、奨学金などを受ける権利がない。学習期間中は、交通費、食事代、宿泊費は自己負担となる。

### 6.6. 学位授与

単位を修得し、博士論文を提出した者、本学学位審査委員会の審査及び承認を経て、教育博士の専門職学位及び博士の卒業証明書が授与される。

### 6.7. その他（全日制の大学院生）

北京師範大学は非全日制の大学院生だけ募集しているが、全日制の大学院生を募集する大学もある。例えば、浙江師範大学では、募集予定者は45人で、そのうち全日制11人、非全日制34人である。そして、北京師範大学の募集要項とほぼ同じであるが、異なる部分は以下のようなものがある。

応募条件には英語能力が求められ、全日制の学生は就職先の同意書を提出する必要がある。

英語能力について、(1) CET-4 $\geq$ 425, (2) TOEFL $\geq$ 80 または IELTS $\geq$ 5.5, (3) 全国外国語能力試験 WSK(PETS5)に合格すること, (4) 質の高い学術論文を筆頭著者として発表している者（雑誌の格付け基準は本学の関連規程を参照）, (5) 英語圏の国または地域から修士の学位を取得し、教育部の留学サービスセンターの認定を得ること, (6) 本校主催の英語能力資格試験に合格することの内一つに達することが要求されている。

授業料について、全日制の大学院生の授業料は一学年12,000元（240,000円程度）、非全日制は一学年が20,000元（400,000円程度）である。そして、全日制の教育博士は奨学金などを申請できる。

## 7. まとめと考察

本論文は中国の教育博士の発展歴史、制度の内容、実施の現状、実施の効果と2023年の動向を整理分析し、その特徴を考察することで、中国の教育博士の歴史と現状を明らかにした。

中国の教育博士の発展歴史は3つの段階に分けられる。1999~2007年は探索期で、国内の多くの大学は教育博士育成に類似した教育実践を行った。2008~2016年は実験期で、2008年に「教育博士専門学位設置案」が採択され、2010年から北京師範大学など15校が正式に教育博士の学生を募集し始めた。2017年~は発展期で、2017年に新しい12校は教育博士の育成機関となり、翌年から学生を募集した。

2010年から募集した教育博士は「教育のリーダーシップと管理」、「学校課程と教科教育」と「学生の発達と教育」の3つの専門分野に分けられ、学業年限、育成方式、課程内容などは2010年の育成方案によって規定されている。「中国語国際教育」は2018年に増設され、それに関する育成方案も同年に公表された。

現状では、27校の大学の多くは師範大学であり、各大学の募集人数が違い、地方大学の募集人数は比較的少ない（表1・表2）。3つの専門分野の人数も異なっている。表3の2015年までのデータにより、「教育のリーダーシップと管理」の人数は「学校課程と教科教育」と「学生の発達と教育」を遥かに上回っていた。また、卒業率の低さ、卒業に対する学術論文の要求、育成方式は教育学博士と似ていることなどが挙げられる。

実施の効果について、実態調査から分かるように、大学院生は教育博士課程の実践性と選択性に対する満足度は低い、学術性に対する満足度は高い。そして、授業



方法は講義が多く、論文審査の条件は教育学博士とほぼ似ていることも指摘されている。

2023年の各大学の予定募集人数と専門分野からすると、「教育のリーダーシップと管理」の人数が最も多く、次は「学校課程と教科教育」と「学生の発達と教育」で、「中国語国際教育」の人数が最も少ない。表3の2010～2015年の合計数では、「教育のリーダーシップと管理」は「学校課程と教科教育」と「学生の発達と教育」の合計数の3倍で、2023年では「教育のリーダーシップと管理」は他の2つの合計数より少なく、この3つの専門分野の募集人数が次第に均衡になっている。

募集人数が一番多い北京師範大学において、教育博士は全部非全日制であり、小中高学校だけではなく、幼稚園や高等教育などが教員も含まれている。専門分野について、最も多いのは「学生の発達と教育」と「学校課程と教科教育」であり、「教育のリーダーシップと管理」と「中国語国際教育」が一番少ない。北京師範大学の募集要項には、「教育のリーダーシップと管理」の募集対象は校長、副校長などの管理層、「学校課程と教科教育」と「学生の発達と教育」の募集対象は教育現場で実際に教えている教員であると考えられる。管理層だけではなく、より多くの普通の教員でも博士課程に入学できるようになった。そして、他の大学との募集要項と比べ、大きな違いがない。

これらにより、中国の教育博士の特徴を以下のようにまとめた。

(1) 2010年から募集を開始し、募集規模を次第に拡大している。表1と表5を見ると、2010年の161人から人数が増えており、2023年では1200人以上を募集するようになった。

(2) 育成機関は主に師範大学で、募集対象は各種の学校の管理者と教員で、非全日制学生が多く占めている。

(3) 専門分野は「教育のリーダーシップと管理」、「学校課程と教科教育」、「学生の発達と教育」と「国際中国語教育」の4つがあり、募集人数はそれぞれ異なる。表3と表5から見ると、4つの専門分野の数が異なり、合計数では「教育のリーダーシップと管理」の人数が最も多く、「中国語国際教育」の人数が最も少ないことがわかり、それは社会的ニーズと関係があると推測できる。そして、「中国語国際教育」の開設期間は他の3つより短く、時間が経つにつれて人数は上昇すると考えられる。

(4) 学校ごとに専門分野の募集人数が異なる。表5により、学校ごとに専攻分野の募集人数が異なり、それは地域性があると推測できる。例えば、北京師範大学の「教育のリーダーシップと管理」が一番少ないことについて、北京は首都であり、教育の発展はより進んでおり、教育博士の取得を目指す層が管理職から一般教員に移行した可能性が高い。

(5) 課程内容の理論性は実践性より強い。課程構成は教育学博士の課程と類似し、教育博士の数は少ないため、教育学博士と同じ授業を受けることが多いことや、授業形態の多くが講義であることなどが原因となる。

(6) 学術能力を重視している。大学の多く現在も学術論文を一定数発表するように求めており、論文提出のための審査条件なども学術型博士に類似している。

(7) 指導教員は学術型教員が中心で、実務型教員は少ない。现阶段では、中国の教育博士課程の学生と学術博士課程の学生は教員が共有され、学術教師が主力であり、実践的な教師の割合は明らかに低い(王・郭 2020)。

中国の教育博士の養成は、学位は異なる東京学芸大学の連合大学院の「課程修了による」博士とほぼ同様と考えられる。「課程修了による」博士の手引きから、20単位以上を履修・修得すること、学位論文審査申請時において求める研究業績、課程修了による博士の学位取得までのプロセスなどは、中国の教育博士の育成案とほぼ同じである。一番の違いは5年以上の実務経験の有無であり、基本学業年限に1年の差があり、そして中国の授業料はより安い。また、中国の教育博士の育成方法にはテーマ別セミナー、ケーススタディ、現場研究、チーム学習などが要求されているが、実際では講義の割合は大きい(図1)。中国では教育博士の院生が大学での課程学習が終了後、現場で実践しながら研究をすることはより重要であると考えられる。

2022年教育部など8部門は「新時代基礎教育強師計画」を公表し、教育博士の学生募集計画を拡大し、質の高い小中学校の教員を育成し、教育改革の発展をリードすることを明確に要求した。これに伴い、教育博士の学生募集と育成規模を拡大する一方で、その育成品質の向上は喫緊の課題となっている(徐ら 2022)。

中国の教育博士の募集対象は主に現職教員で、実践性を求めていると考えられる。このような現状をもとに、育成品質の向上について、教育学博士との育成から区別し、卒業率の低さの原因を探り、課程の実践性、実務分

野の指導者の割合, 授業形態の豊富さを高めることなどが考えられる。

#### 付記

本研究はJSPS 科研費 23K02708 の助成を受けたものである。

#### 参考文献

- 高鸞, 朱旭東 (2019) 我国教育博士培養制度實施中的問題与对策. 教育發展研究, 03 : 62-70.
- 陳曦 (2010) 中国における専門職学位の動向. 名古屋高等教育研究, 10 : 237-251.
- 雲尾周 (2009) 中国における教員養成の高度化—現職教育による専門職学位「教育修士」—. 教育制度学研究, 16 : 42-46.
- 教育部 (2020) 国務院学位委員会教育部關於印發「專業学位研究生教育發展方案 (2020-2025)」的通知. [http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/moe\\_826/202009/t20200930\\_492590.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/moe_826/202009/t20200930_492590.html) (参照日 2023.08.02)
- 秦春生, 宋萑 (2021) 2000-2020 年国内教育博士培養研究文獻述評. 研究生教育研究, 06 : 1-9.
- 李宝貴 (2019) 教育博士專業学位研究生招生問題的透視与改進—以漢語國際教育領域為例. 教育科学, 05 : 82-91.
- 翟月, 毛立偉, 陳玥 (2022) 專業博士教育研究 20 年: 主題比較与路向探尋. 研究生教育研究, 01 : 16-23+62.
- 全国教育專業学位研究生教育指導委員会 (2010) 教育博士專業学位研究生指導性培養方案. [://grs.pku.edu.cn/docs/202106/20210618104600162596.pdf](http://grs.pku.edu.cn/docs/202106/20210618104600162596.pdf) (参照日 2023.08.02)
- 全国漢語國際教育專業学位研究生教育指導委員会 (2018) 教育博士專業学位漢語國際教育領域研究生指導性培養方案 (暫行) <https://grs.pku.edu.cn/docs/2021-05/20210528134404575558.pdf> (参照日 2023.09.02)
- 吳敏, 姚雲 (2020) 中国教育博士專業学位十年發展与改革. 高教發展与評估, 06 : 75-83+120-121.
- 王亮, 郭叢斌 (2020) 教育博士專業学位研究生培養質量滿意度研究—基于某綜合性高校教育博士研究生就讀體驗調查的實証分析. 学位与研究生教育, 04 : 52-59.
- 吳剛 (2017) 中国教育專業学位研究生教育回顧与前瞻. 中国教育科学, 02 : 97-135+96+196.
- 徐莉, 李秋霞, 梁震 (2022) 我国教育博士學習場域的審視与構建. 現代教育管理, 12 : 86-95.
- 王坦 (2019) “双一流”背景下教育博士實踐性特征考察—基于 112 位教育博士研究生的實証調查. 河北科技大学学報(社会科学版), 03 : 91-96.
- 申国昌, 夏豪傑 (2022) 我国教育博士專業学位授予標準: 内容, 問題与建議. 学位与研究生教育, 08 : 53-60.
- 浙江師範大学 (2023) 浙江師範大学 2023 年學術学位博士研究生招生簡章. <https://yzw.zjnu.edu.cn/2022/1215/c4968a408902/page.htm> (参照日 2023.08.02)
- 北京師範大学 (2023) 2023 年教育博士專業学位研究生招生簡章. <https://yz.bnu.edu.cn/detail/95c002b5-2c22-42db-a373-51956ea6389a> (参照日 2023.08.02)
- 北京師範大学 (2023) 2023 年漢語國際教育專業領域教育博士專業学位研究生招生簡章. <https://yz.bnu.edu.cn/detail/94ba66d8-7db7-4918-8beb-1834cef3fc42> (参照日 2023.08.02)
- 教育部 (2022) 教育部等八部門關於印發「新時代基礎教育強師計劃」的通知. [https://www.moe.gov.cn/srcsite/A10/s7034/202204/t20220413\\_616644.html](https://www.moe.gov.cn/srcsite/A10/s7034/202204/t20220413_616644.html) (参照日 2023.08.02)
- 東京学芸大学 (2022) 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科「課程修了による博士」学位論文提出の手引. [https://www2.ugakugei.ac.jp/~graduate/rengo\\_u/gakui/data/gakuki-tebiki\\_katei2022.pdf](https://www2.ugakugei.ac.jp/~graduate/rengo_u/gakui/data/gakuki-tebiki_katei2022.pdf) (参照日 2023.08.02)